



東アジア地方政府会合

East Asia Local and Regional Government Congress

1. 設立趣旨

平成22（2010）年、平城遷都1300年を記念する中核事業として、日本、中国、韓国をはじめ、広くインド・東南アジア諸国の地方政府とともに、「東アジア地方政府会合」を設立しました。

この会合は、地方政府の代表が地域の実情や課題を忌憚なく報告し合い相互理解を深めるとともに、共通する課題への真摯な議論を通して、解決の道筋を見出そうとするものです。

このような「東アジア地方政府会合」を継続的に開催することにより、我々地方政府の行政能力を高めるとともに、相互の友好と信頼を高め、そのことが国家間の外交を補完しつつ、平和で安定した東アジアの発展に貢献できると考えています。

今後とも、より多くの地方政府の参加を求め、本地方政府会合の趣旨実現を目指します。



2. 第4回東アジア地方政府会合の開催について

開催日程 2014年（平成26年）1月20日（月）～22日（水）

開催地 奈良県奈良市

討議議題 ①（仮）少子高齢化時代の社会保障
②（仮）地域経済の振興と雇用

プログラム概要

	1月20日（月）	1月21日（火）	1月22日（水）
午前	（入国・来県）	開会式・基調講演 グループ討議（首長）	バイ会談 ※希望地方政府
午後	オリエンテーション グループ討議（実務者）	グループ討議（首長） 全体会議、記者会見	（出国・離県）
夕刻	ウェルカムレセプション	知事招宴	

3. 参加地方政府

国 名	参加地方政府数
日本	3 2
中華人民共和国	1 4
インドネシア共和国	1
マレーシア	1
フィリピン共和国	2
大韓民国	8
ベトナム社会主義共和国	6
合 計	6 4



【地方政府の範囲】

- 広域自治体 <例> 日本：都道府県
中国：省、自治区
韓国：道、広域市
- 基礎自治体 <例> 日本：市町村
中国：市
韓国：市、郡

【東アジアの範囲】

- 日本 ●中華人民共和国 ●大韓民国
- ASEAN諸国
インドネシア・マレーシア・フィリピン・シンガ
ポール・タイ・ブルネイ・カンボジア・ミャン
マー・ベトナム・ラオス
- インド

	開催日	参加者	会議スタイル	開催地
提唱者 会合	2009年10月25日(日)～28日(水)	・ 3 カ国 (日本、中国、韓国) ・ 1 9 地方政府	経済界との対話	日本国 奈良県 奈良市
第 1 回	2010年10月 6 日(水)～8日(金)	・ 6 カ国 (日本、中国、韓国、 インドネシア、イン ド、フィリピン) ・ 3 4 地方政府	地域レポート報告	日本国 奈良県 奈良市
第 2 回	2011年10月18日(火)～26日(水)	・ 6 カ国 (日本、中国、韓国、 フィリピン、ベトナム、 インド) ・ 4 5 地方政府	首長による少人数 制のグループ討議	日本国 奈良県 奈良市
第 3 回	【上級実務者】 ・ 第1回テーマ別会合： 2012年8月28日(火)～29日(水) ・ 第2回テーマ別会合： 2012年9月10日(月)～11日(火) 【首長級】 ・ 全体会合： 2012年11月5日(月)～6日(火)	・ 延べ 6 カ国 (日本、中国、韓国、 マレーシア、フィリ ピン、 ベトナム) ・ 延べ 4 7 地方政府	実務者によるグ ループ討議 首長によるグル ープ討議	日本国 奈良県 奈良市

4. 第3回会合（概要）

第1回テーマ別会合（8月）	第2回テーマ別会合（9月）
〔テーマ1〕 少子高齢化時代の社会保障を考える ◆基調講演・モデレーター 宮本 太郎 北海道大学大学院法学研究科教授 アン・サンフン ソウル大学社会福祉学科教授 〔テーマ2〕 税収確保に向けた取り組み ◆基調講演 佐藤 主光 一橋大学国際・公共政策研究部教授 ◆モデレーター 百嶋 計 名古屋国税局長	〔テーマ3〕 地域振興 ◆基調講演・モデレーター 田中 修 財務省財務総合政策研究所次長 花岡 洋文 国土交通省大臣官房審議官 （都市局担当） 〔テーマ4〕 人材育成 ◆基調講演・モデレーター 横道清孝 政策研究大学院大学教授・学長補佐 牧慎太郎 総務省 地域力創造グループ地域自立応援課長
全体会合（11月）	
（11月7日） ●バイ会談 ●ウエルカムパーティー （11月8日） ●テーマ別討議 ・基調講演 「東アジア情勢と地方政府の対応」 石原 信雄 （財団法人地方自治研究機構会長） ・グループ討議 〔テーマ1〕 少子高齢化時代の社会保障を考える モデレーター 荒井 正吾 奈良県知事 〔テーマ2〕 税収確保に向けた取り組み モデレーター 百嶋 計 名古屋国税局長 〔テーマ3〕 地域振興 モデレーター 田中 修 財務省財務総合政策研究所次長 花岡 洋文 国土交通省大臣官房審議官（都市局担当） 〔テーマ4〕 人材育成 モデレーター 椎川 忍 総務省地域力創造・緑の分権改革アドバイザー ●全体会議、記念撮影 ●代表記者会見 ●知事招宴	
    	



東アジア・サマースクール

East Asia Summer School

1. 開催趣旨

平成22年の「第1回東アジア地方政府会合」において、これからの東アジアのリーダーとしてグローバルに活躍できる人材育成の必要性が提案され、平成23年より、東アジア各国の大学生・大学院生等を対象にした短期合宿型セミナー「東アジア・サマースクール」を実施しています。

平成25年度においては、これまでの成果を踏まえつつ、下記の要領で実施します。

2. 第3回東アジア・サマースクール2013の開催について

開催日程 平成25年8月17日(土)～31日(土) 15日間
 主 催 奈良県・奈良県立大学
 実施会場 奈良県立大学ほか
 受講対象 地方政府もしくは所属大学から推薦された東アジア各国の大学生・大学院生等

講義



グループ討議



カリキュラム

視察体験



成果発表



3. 参加状況

	開催日	参加国(人数)	受講者数
第1回	平成23年 7月18日(月) ～8月6日(土)	中国(18名)	38名
		韓国(11名)	
		日本(9名)	
第2回	平成24年 7月23日(月) ～8月12日(日)	中国(12名)	38名
		韓国(5名)	
		ベトナム(2名)	
		日本(19名)	
第3回	平成25年 8月17日(土) ～8月31日(土)	中国(14名)	45名 (予定)
		韓国(10名)	
		ベトナム(2名)	
		日本(19名)	



第1回開催時



第2回開催時

4. カリキュラム構成

(1) 東アジア各国の違いや類似点を正確に認識できるカリキュラムを創造します。

- 東アジア共有の知識を学ぶと共に、互いの違いや類似点への気づきを促す講義を目指します。
- 東アジア各国の歴史や文化、政治、経済、環境、科学技術など各分野の著名な教授陣などによる講義を展開します。

(2) 受講者同士の信頼関係と親近感を醸成します。

- 文化や価値観の違いを理解し、受け入れるために必要な対話の場作りを展開していきます。

(3) 奈良の地域を活用したカリキュラムを展開します。

- 県内の文化遺産や先端技術、生活文化などを体験・習得できるカリキュラムを展開していくことで「東アジア・サマースクール」と地域との繋がりを深めていきます。
- 「東アジア・サマースクール」の展開を通じて、奈良県と東アジアとの人的交流を推進していきます。

5. 受講生の感想

- 言語の交流だけでなく、心からの交流も大切だと思った。(中国 甘肅省からの受講生)
- 東アジアがこれからどう進むべきなのか考えてみる。(韓国 慶尚北道からの受講生)
- 東アジアの方と文化交流することができ、忘れがたい体験となり、いい思い出ができた。(ベトナム フェエ省からの受講生)
- このような取り組みが故郷の奈良で行われていることに誇りを持てたと同時に東アジアの調和に寄与していくと確信した。(橿原市からの受講生)